

平成26年度川島町地域包括支援センター事業報告

資料 1

報告者 櫻井栄子

地域支援事業 青字が平成 26 年度川島町地域包括支援センター事業及び委託事業

事業名		
Ⅰ)介護予防事業	1) 二次予防事業 要支援・要介護となる恐れの高い者を対象とした介護予防事業	二次予防事業対象者把握事業 通所型二次予防事業 訪問型二次予防事業
	2)一次介護予防事業 全高齢者を対象とする介護予防事業	こっこつクラブ 若返り脳講座 ファシリテーター(若返り脳講座支援者)養成講座 いきいきサロン出前講座
Ⅱ)包括的支援事業	1)介護予防マネジメント	
	2)総合相談・支援、権利擁護・虐待早期発見・防止	
	3)包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	
Ⅲ)任意事業	1)家族介護支援事業	家族介護教室 認知症を支える家族の交流会 家族介護リフレッシュ事業
	2)その他の事業	認知症サポーター養成講座

介護予防事業

1) 二次予防事業

通所型二次予防事業(若返りサロン)

	1G(4月～6月)	2G(7月～9月)	3G(9月～11月)	4G(10月～12月)
参加者数	13	13	11	13
実施回数	11	11	11	11
参加延べ人数	120	129	98	111
	5G(11月～1月)	6G(1月～3月)	合計	
参加者数	12	13	75	
実施回数	11	11	66	
参加延べ人数	115	実施中	※573	

※2月末現在

実施回数:1グループにつき週1回3ヶ月間、計11回実施し75名が参加しました。うち2名は実施期間中に体調不調により中止となりました。

参加費:無料 **送迎:**あり **内容:**運動機能向上(集団プログラム+個別プログラム)+介護予防の啓発(転倒予

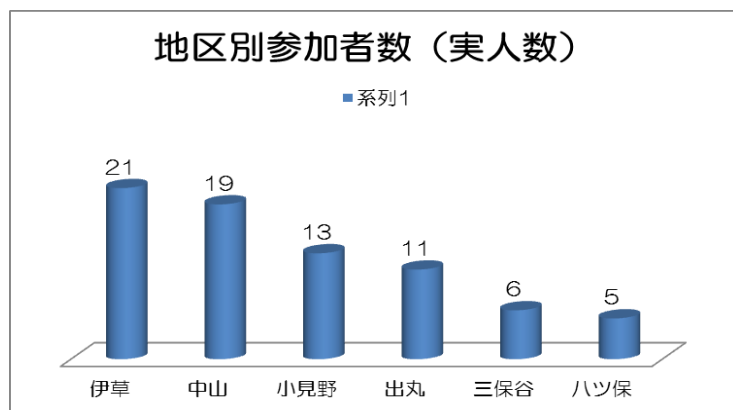
防、認知症予防、口腔機能向上、インフルエンザ、脱水症の予防等)

講師:平成の森・川島病院 理学療法士、川島町地域包括支援センター 看護師他

参加者数: 地区別参加人数は、伊草地区 21 名、中山地区 19 名、小見野地区 13 名、出丸地区 11 名、三保谷地区 6 名、ハツ保地区 5 名でした。参加者率は、小見野、出丸地区が 2%を超え、全体で 1.33%でした。

会場:コミュニティセンター、平成の森・川島病院

地域別参加人数 :



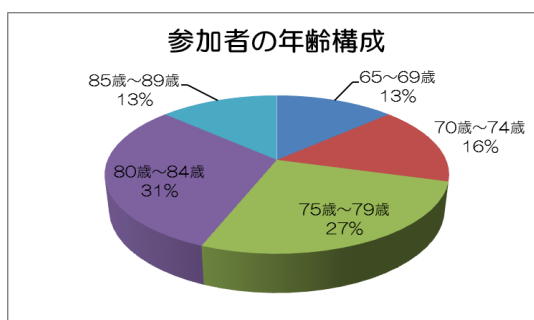
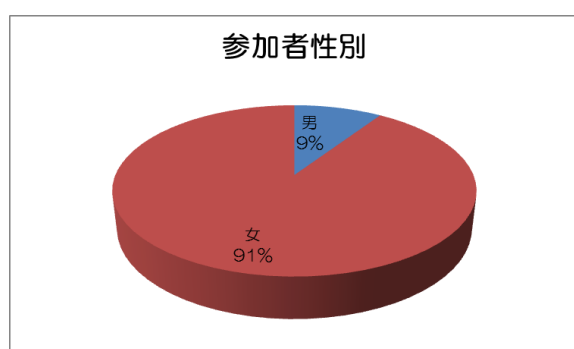
地域別参加者の占める割合

高齢者人口平成 26 年 4 月現在

地区	伊草	中山	小見野	出丸	三保谷	ハツ保	全体
高齢者人口	1,063	1,741	543	454	628	673	5,643
参加者数	21	19	13	11	6	5	75
%	1.98%	1.09%	2.39%	2.42%	0.96%	0.74%	1.33%

参加者性別・年齢・参加率

参加者の性別は、女性 91%、男性 9%でした。昨年より男性が減少していました。参加者の年齢は 60 歳代が 13% (昨年 8%)、70 歳から 74 歳が 16% (昨年 21%)、75 歳から 79 歳が 27% (昨年 34%)、80 歳



から 84 歳は 31% (昨年 25%)、85 歳以上は 13% (12%) を占めていました。昨年と比較すると 80 歳代の参加者の割合が増えています。

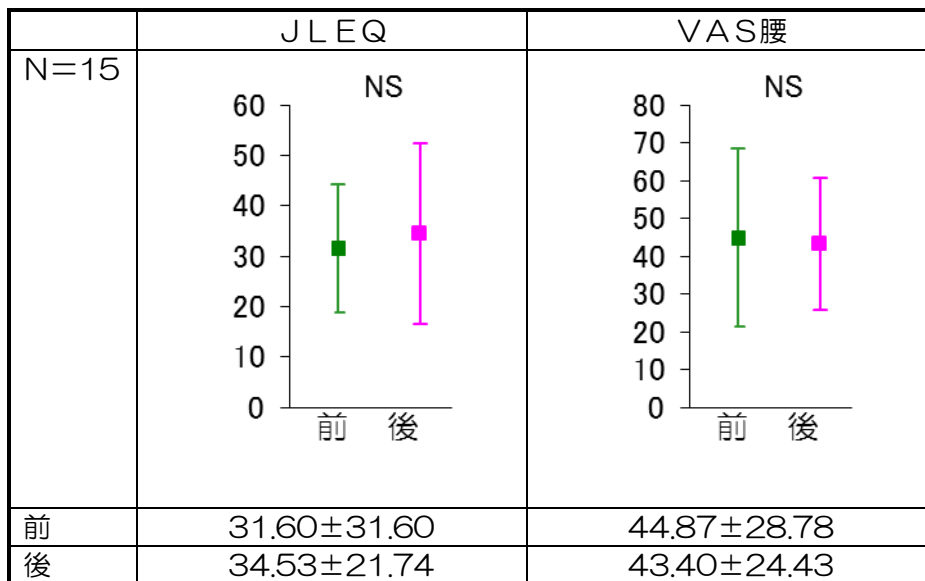
2 月末までの参加率の平均は、87.7% (昨年 84.3%) で欠席なく参加されたかたは 29 名で 38.6% (昨年 30%) でした。欠席の理由は受診や体調不調、家族の介護のためなどでした。

身体機能の変化 N=56 ※※:二次予防対象者の平均

項目	握力	開眼片足立ち	TUG
※※	男性:27.1、女性 18.6	男性 13.9 女性 15.1	男性 11.4 女性 10.5
前	22.22±5.27	35.03±22.3	8.70±2.01
後	22.69±5.11	38.67±22.56	7.59±1.55

	通常歩行 5m	最大歩行 5m	転倒不安感
※※	男性 6.7 女性 5.8	男性 5.1 女性 5.0	
前	4.72±0.70	3.56±0.83	16.82±4.89
後	4.35±0.68	3.31±0.64	16.68±4.86

	JKOM	VAS膝
N=18		
前	22.89±13.91	44.94±29.28
後	20.67±14.14	29.89±25.91



2 月末までの参加者 62 名中、前後で体力測定を行った 56 名で比較しました。JKOM（日本版変形性膝関節症患者機能評価）は膝の痛みのあるかた 18 名、JLEM（疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度）は腰の痛みのあるかた 15 名で比較しました。転倒の不安感 は Tinetti 尺度を使用しました。統計学的処理は t 検定を使用しました。

握力、開眼片足立ちは、統計学的な有意差は見られませんでした。TUG（移動能力を測定）、通常 5 m 歩行及び最大歩行 5m（歩行能力測定）は、実施前後で有意差があり（ $P<0.005$ ）改善がみられました。転倒不安感 は、有意差はみられませんでした。JKOM、JLEQ は統計学的有意差は見られませんでした。痛みのビジュアルアナログスケールでは、膝の痛みは実施前後で有意な差が見られ改善がみられました。

用語の説明

VAS：（ビジュアルアナログスケール）点数が高いほど痛みが強い

JKOM：日本版変形膝関節症患者機能評価

膝の痛み、日常生活状態、普段の生活、健康状態について 25 項目の質問からなる。点数が高いほど日常生活に支障がでている

JLEQ：変形性腰椎症患者機能評価

腰の痛み、日常生活状態、普段の生活、健康状態について 30 項目の質問からなる。点数が高いほど日常生活に支障が出ている。

TUG：Timed Up & Test 移動能力を測定します。椅子から立ち上がり、3m先の目印を回って、再び椅子に座るまでの時間を測定します。時間が短いほど移動能力が高い。

3) 主観的健康感、QOL 指標の変化

主観的健康感 N=58

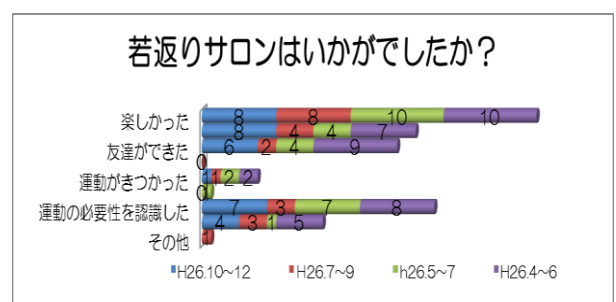
		実施後					
実施前		良い	まあよい	普通	あまり良くない	良くない	不明
	良い	1	3	3			
	まあよい		5	2			
	普通	2	7	33			1
	あまり良くない			1			
	良くない						
	不明						
		人数	%				
改善							
維持	49	84.5%					
悪化	8	13.8%					
不明	1	1.7%					

主観的健康感を「全体的に今日の体調はどの程度ですか？」で測定し、よい、まあよい、普通、あまり良くない、よくないで測定し、参加前後で測定できた 58 名で比較しました。改善・維持 84.5%(昨年 79.4%)、悪化 13.8%(昨年 20.6%) でした。

QOL 指標 N=58

		実施後					
実施前		大変楽しい	楽しい	普通	あまり楽しくない	楽しくない	不明
	大変楽しい		1	1			
	楽しい		1	8			
	普通		4	39			1
	あまり楽しくない			1	2		
	楽しくない						
	不明						
		人数	%				
改善							
維持	47	81.0%					
悪化	10	17.2%					
不明	1	1.7%					

「毎日の生活は楽しいですか？」で測定し、大変楽しい、楽しい、普通、あまり楽しくない、楽しくないで測定し、参加前後で測定できた 47 名を比較しました。改善・維持が 81.0%(昨年 90.5%)、悪



化が 17.2%（昨年 9.5%）でした。

2)一次予防事業

(1)こつこつクラブ(自主グループ)

今年度はこつこつクラブを中山公民館、伊草公民館、小見野公民館の他に 8 月より出丸公民館を増やし、2 月末まで延べ 1,127 人が参加しています。運動機能の維持向上だけでなく参加することが楽しみになっており欠席が続くと心配して連絡をとりあったりしています。会場作りも椅子を準備したり、重い机を準備したり大変なのですが、腰や膝の痛い方へのいたわりもあり、和やかな雰囲気になっています。

参加者数: 2 月末までの延べ参加者数 1,127 人

	中山公民館 (水曜日)		伊草公民館 (火曜日)		小見野公民館 (月曜日)		出丸公民館 (金曜日)	
	男	女	男	女	男	女	男	女
参加実人数								
H26 年 12 月末	1	38	1	13	2	25	0	8
参加延べ人数								
H26 年 2 月末	646		219		145		117	
※H25 年度 延べ人数	701		127		96		/	

実施回数: 各会場とも週 1 回

内容: 椅子に座ったり、椅子につかまっの運動、チューブを使った運動(ストレッチ+筋肉トレーニング)

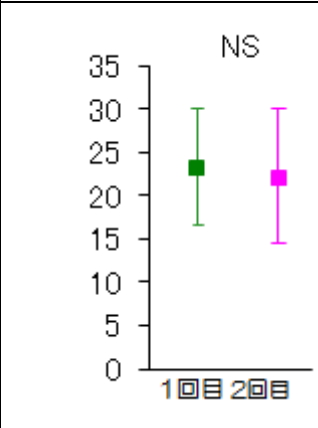
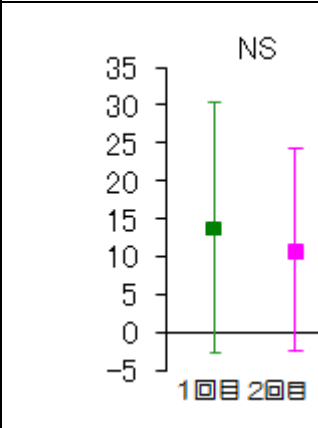
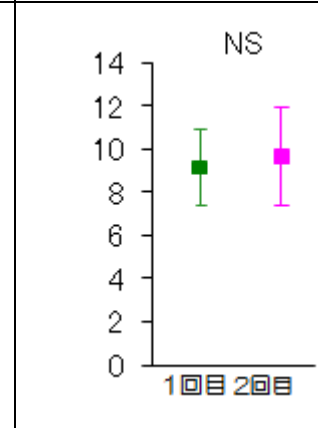
(メニューは平成の森・川島病院理学療法士作成)参加者同士で血圧測定や健康チェックして声をかけながら行う。

参加費: 無料 **対象者:** 若返りサロン参加者及び若返りサロン参加者と同じくらいの体力の方

効果:

1) 体力測定値の比較: 若返りサロン参加後、こつこつクラブに参加せず、次年度再度若返りサロンに参加された方 17 名 (A 群) と若返りサロン参加後こつこつクラブ参加し 1 年経過した方 9 名 (B 群) を比較しました。

A 群 (こつこつクラブに参加しない群) N=17

	握力	片足立ち	TUG
			
1 回目	23.22±6.71	13.70±16.57	9.14±1.74
2 回目	22.24±7.73	10.82±13.38	9.68±2.28

B 群こつこつクラブ参加者 (N=9)

	握力	片足立ち	TUG
H	19.61±3.90	23.29±27.37	9.68±2.77
1年後	20.83±3.56	28.54±24.36	8.00±1.70

握力、片足立ち、TUG（移動能力測定）は、こつこつクラブに参加しない群は、1回目と2回目（1年後）を比較すると2回目（1年後）の方が低下していましたが、こつこつクラブ参加者は平均値は良くなり、t検定においても有意な差が見られました。

A群（こつこつクラブに参加しない群）N=17

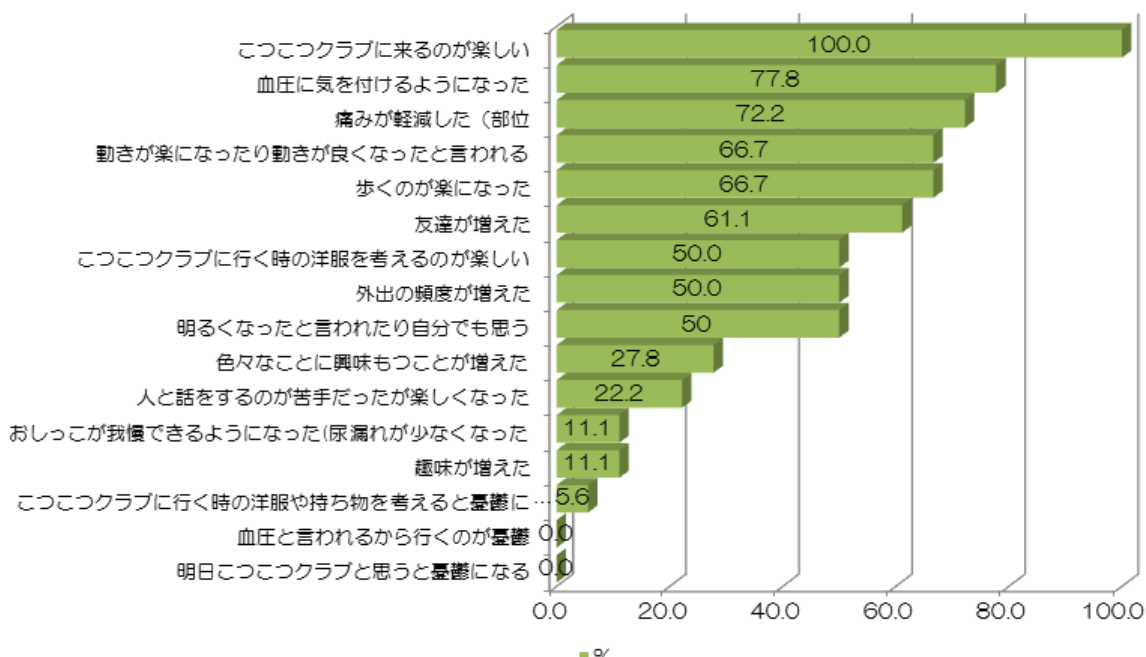
	5m通常歩行	5m最大歩行
1回目	4.55±0.63	3.71±0.91
2回目	4.66±0.91	3.82±0.59

B群（こつこつクラブ参加群）(N=9)

	5m通常歩行	5m最大歩行
終了時	5.52±1.81	4.67±1.68
1年後	5.07±1.20	3.68±0.80

5m通常歩行においては、こつこつクラブに参加しない群は、1年後は遅くなっていましたが、こつこつクラブ参加者は平均値は良くなっていました。また5m最大歩行はt検定でも有意な差がみられました。

こつこつクラブに参加してあてはまるものは？（全体）



こつこつクラブに参加してあてはまるものというアンケート調査では楽しい、血圧に気を付けるようになった、痛みが軽減した、友達が増えたなど半数以上のかたが答えていました。



(2) 若返り脳講座(認知症予防プログラム)

実施日	内容	参加者数	備考
7月30日	認知症予防講話 ファイブ・コグ ※	42名 35名	
8月11日 8月12日	ファイブ・コグ結果説明会 及び若返り脳講座の説明	12名 15名 8名郵送	
9月13日～12月27日 毎週土曜日 9時から11時まで16回	地域型認知症プログラム 16回のプログラム パソコンのすすめ+ウォーキングのすすめ 料理のすすめ +ウォーキングのすすめ	パソコン6名 料理5名 計11名	パソコンのすすめ ミニコミ誌2号まで完成 料理のすすめ 新しいレシピを考案し、レシピ集作成

ファシリテーター養成講座

実施日	内容	参加者数	備考
11/22,29 12/6,13,20 5日間	認知症について 軽度認知障害について 認知症予防の根拠 若返り脳講座について ファシリテーター理論と技術 ファイブ・コグについて パソコンプログラム、ウォーキングプログラムの進め方 見学実習	3名	H27年度活動予定

※ファイブ・コグ検査とは、東京都老人総合研究所と筑波大学臨床医学系精神医学で開発された集団認知機能検査です。脳の機能の記憶・注意・言語・視空間認知・思考の5つの機能を測る検査で、その結果から、自分の脳の機能の状態を知る事ができます。

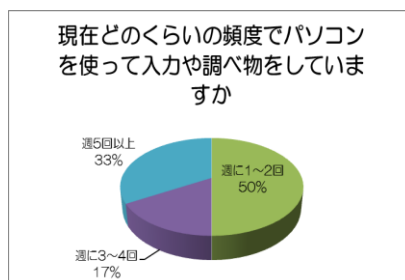
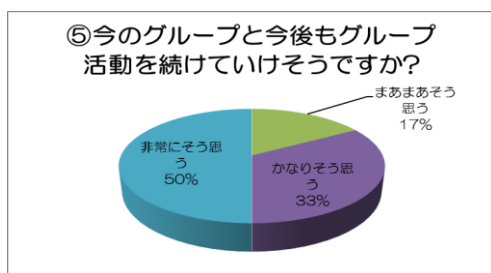
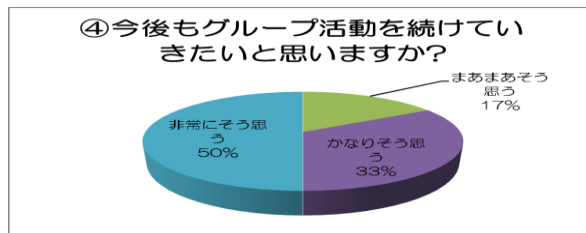
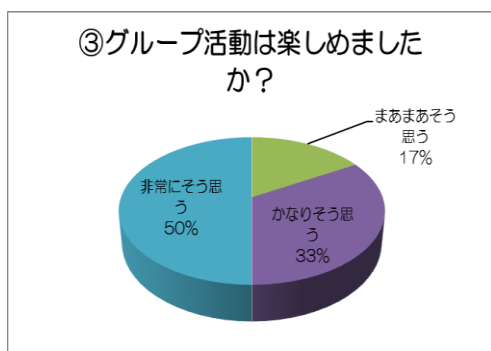
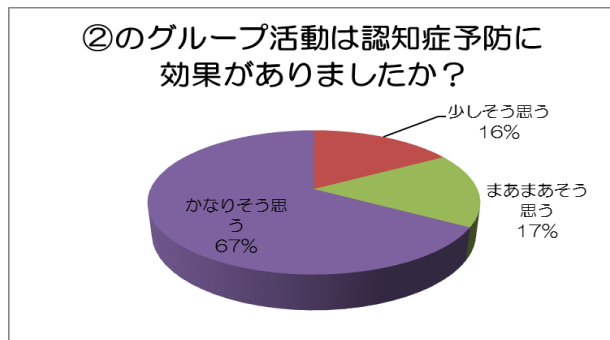
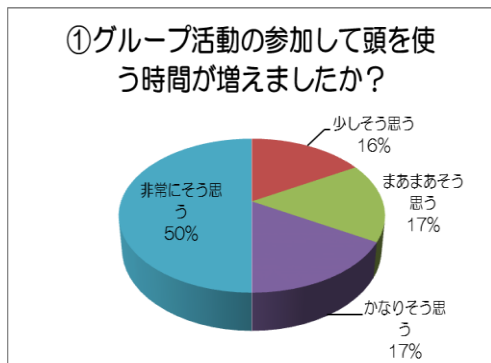
認知症予防事業として若返り脳講座を行いました。認知症予防講話は42人が参加され、東京都老人総合研究所と筑波大学で開発した地域型認知症プログラム(料理のすすめ・パソコンのすすめ)には11人が参加されています。また、プログラムの支援者であるファシリテーター養成講座を開催し、3人に受講し平成27年度活動予定です。

効果：

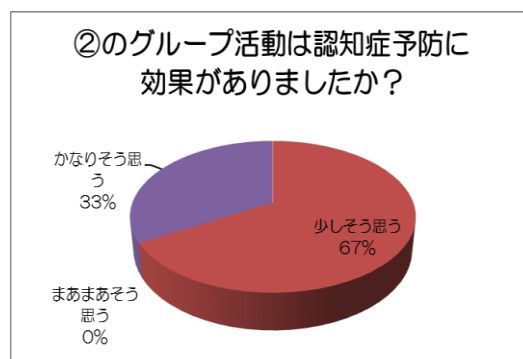
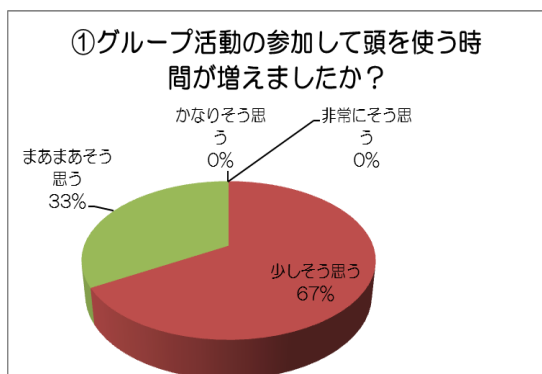
参加者のアンケート調査から

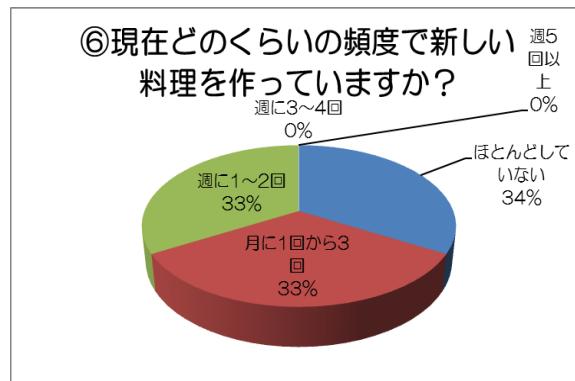
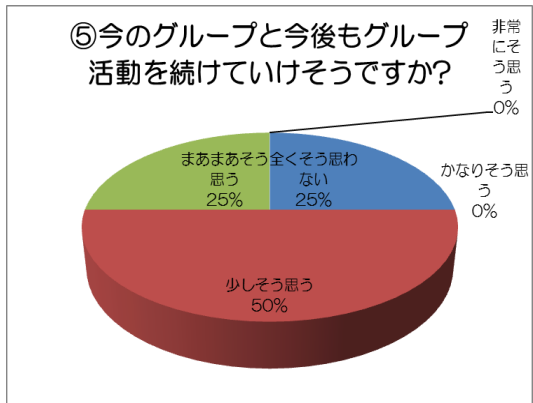
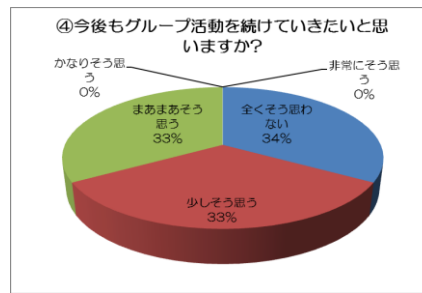
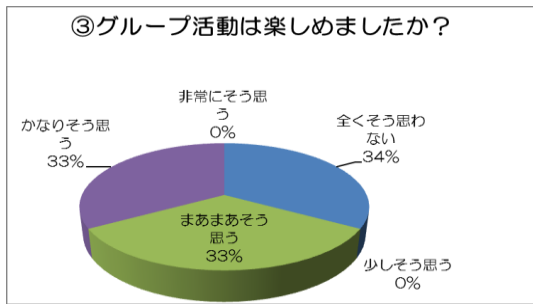
① アンケートの結果

○パソコンのすすめグループ



○料理すすめグループ





アンケートの結果からはパソコンのすすめの方が料理のすすめのグループより認知症予防に効果があり、今後もグループ活動を継続すると答えていました。

② ファイブ・コグの結果

ファイブ・コグの結果は、全員向上していました。

平均値の比較

	運動得点	位置判断	単語記憶	時計描写	動物名想起	共通単語
実施前	51.63	51.88	51.38	52.37	53.75	56.50
実施後	56.50	55.88	56.50	51.50	55.13	59.88

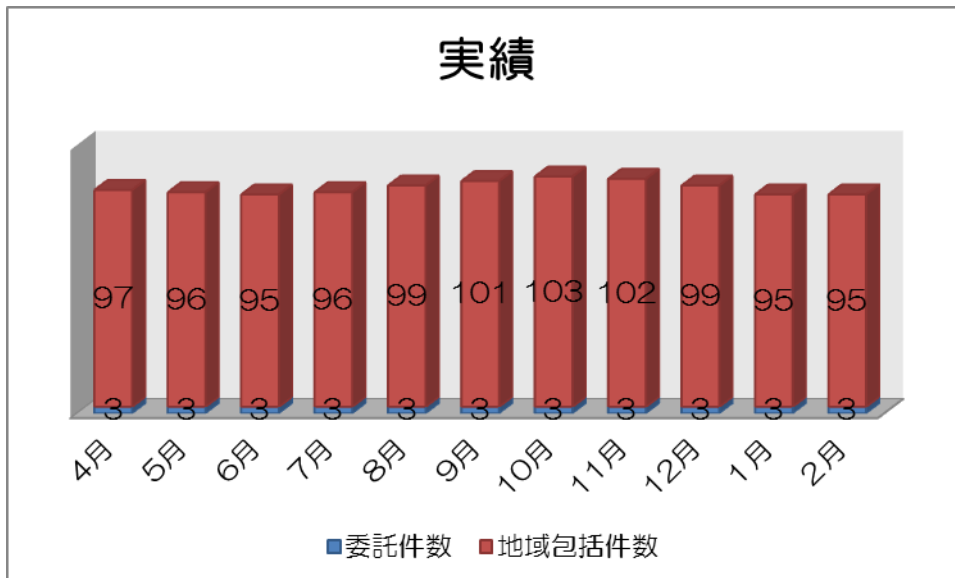
いきいきサロン等の出前講座

月	会場	内容
4/2	フラットピア	ストップ高齢者虐待、高血圧を知ろう
4/11	平沼集落センター	転倒予防教室
6/18	下八ツ林集落センター	認知症の予防
6/25	白井沼集落センター	認知症の予防
6/26	大辻集落センター	介護保険を知ろう
7/4	芝沼集落センター	介護保険を知ろう
7/14	畑中集落センター	認知症の予防
8/8	伊草公民館	高齢者体操
9/30	牛ヶ谷戸集落センター	転倒予防教室

Ⅱ) 包括的支援事業

1) 介護予防マネジメント事業

① 件数(請求数で集計)



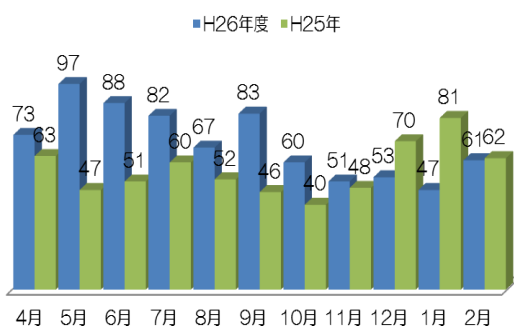
2月までのケアプラン作成延べ件数は地域包括支援センター作成が延べ1,078件、月平均98件(昨年86件)委託33件、月平均3件で委託先は川島町社会福祉協議会指定居宅介護支援事業所です。

2) 総合相談支援・権利擁護事業

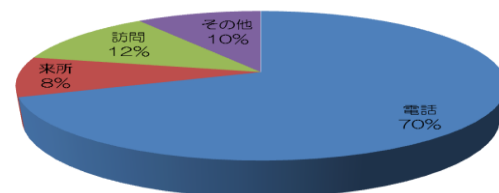
(1) 総合相談業務 相談実績(延べ人数)

H27年2月末で相談延べ件数は762件(昨年620件)でした。相談形態は、電話70%(昨年71%)、訪問12%(昨年10%)、来所8%(昨年9%)でほぼ昨年と同じでした。相談の内容は、昨年と比較すると権利擁護に関する相談の割合が増えていました。対応は相談43%(昨年43%)、情報提供26%(昨年21%)、連絡調整14%(昨年13%)、家庭訪問が12%(昨年14%)で昨年とほぼ同じでした。

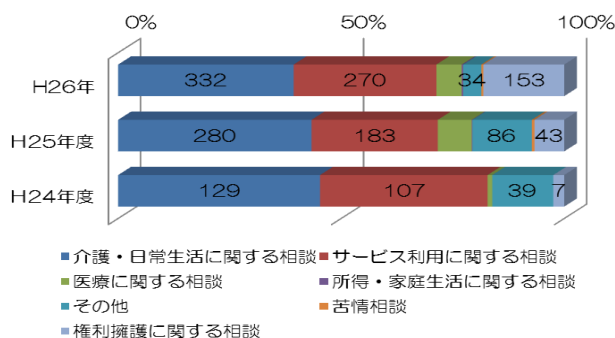
総合相談延べ件数H25年度との比較



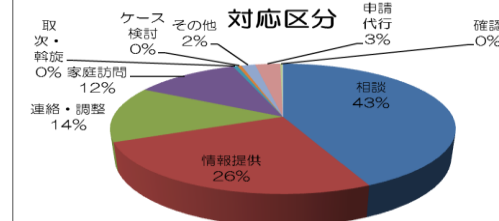
相談形態



相談内容 (H24年からの比較)



対応区分



○高齢者虐待対応状況

①相談、通報

7 件うち 1 件は昨年より継続

② 新規(6 件)通報者

介護支援専門員 3 件、民生委員より1件、本人から 1 件、家族(娘)から 1 件

③ 虐待と判断したケース 2 件

④ 虐待相談 ○虐待の種別・類型 (重複)

	身体的虐待	介護放棄	心理的虐待	性的虐待	経済的虐待
件数	2	1	1		1

○川島町高齢者虐待防止ネットワーク

7 月 10 日 虐待ネットワーク全体会議

○啓発・広報事業

虐待予防ポスターを作成しネットワーク構成員に掲示を依頼、高齢者見守りチェックリストを作成し通報の呼びかけを行った

- ・町内医療機関、接骨医院等 19 力所
- ・町内介護保険事業所 9 力所 ・公民館他 7 力所
- ・郵便局、消防署、JA等 16 力所
- ・商工会会員商店 56 力所

計 107 力所(昨年より27 力所増)

3) 包括的・継続的マネジメント支援業務

①川島町内にある居宅介護支援事業所のケアマネジャーとの勉強会開催

参加者数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
参加者数		11		8	9	9	
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
参加者数	9	5	9	11	8		79※

内容

※2月末現在

- ・事例検討会 (5 月、7 月、10 月、12 月、1 月)
- ・研修○改正介護保険に対する対応方法 講師：長谷川佳和氏 (8 月)
 - 障害福祉サービスについて～補装具を中心に～
 - 講師 川島町役場健康福祉課 駒村菜実氏(9 月)
 - 認知症サポーター養成講座(1 1 月)
 - 入院費用について 講師：平成の森・川島病院 内嶋啓一 (2 月)

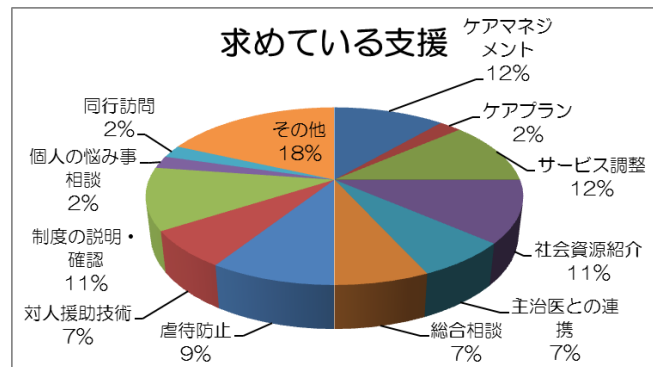
②居宅介護支援事業所訪問(6 月)

③個別支援

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
受付件数	4	6	2	1	1	2	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受付件数	2	0	0	3	1		22※

※2月末現在

ケマネジャーの個別支援件数は2月末
現在 22 件でした。求めている支援は右図
を参照してください。



Ⅲ)任意事業

1) 認知症サポーター養成講座

① 認知症サポーター養成講座

実施日	年齢							参加人数
	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	
7月12日 住民				1	1			2
7月17日 消防署	7	7	5					19
7月18日 消防署	12	8	3	1				24
7月19日 消防署	8	11	2				4	25
7月25日 シニア学園				7	14		6	27
7月26日 民生委員			1	8	2		1	12
7月29日 民生委員			2	19	3			24
11月22日 住民		3	4	3	1			11
	27	29	17	39	21		11	144※

認知症サポーター養成講座は、2月末まで8回実施して144人が受講しています。

※2月末現在

内容

キャラバンメイトによる講義

認知症とは(認知症の症状、認知症の診断・治療、認知症の予防)、認知症の人との接し方、認知症介護をしている家族の気持ちを理解する、紙芝居 認知症の人への関わり方、認知症サポーターの役割

② 認知症サポーターフォローアップ研修

実施日	参加人数	内容
9月13日	23人	講話(徘徊について)
9月17日	12人	グループワーク 認知症になったらどうしてほしいか、そこからどのような支援が必要か
11月9日	30人	徘徊模擬訓練

認知症サポーターフォローアップ研修を3回実施し延べ65人が参加されています

2) 家族介護支援事業

① 家族介護教室 今から備えて賢い介護者、利用者になろう(4回シリーズで実施)

内容及び参加者数 延べ参加者77名

月	内容	参加者数
2月7日	高齢者についての基本知識、家族が介護する必要性が起きたら	20名
2月14日	介護保険制度	18名
2月21日	家庭での介護のポイント①	20名
2月28日	家庭での介護のポイント②	19名

② 認知症を支える家族の交流会(奇数月に実施)

参加者数

月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	計
参加者数	7	11	8	8	7		41

2月末現在

内容 認知症についての勉強会(30分)と交流

勉強会(ビデオ)

月	内容
5月	ハートネット みつえとゆういち —親子で紡ぐ“認知症”漫画—
7月	ハートネット TV 私から始まる認知症
9月	ハートネット TV 私から始まる認知症 オレンジプランの検証
11月	DVD 二人の傘
1月	わたしから始まる 第4回自分らしく生きよう アニメ映画「しわ」が描く当事者の世界～

③ 家族介護リフレッシュ事業

12月5日 参加者5人

男性限定のクリスマスケーキ&クッキー作り

食事をしながら交流会

講師 平成の森・川島病院 齊藤管理栄養士



④ 介護者のための折り紙講習会 講師:橋本忠勝氏

実施日	内容	参加者
10月16日	猫など	8人
12月12日	サンタ、クリスマスツリーなど	12人
2月19日	今年の干支羊	11人

